

2021年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	ふしみ やすこ				
教員氏名	伏見 康子	職 位	准教授	学 位	博士（経営学）
アルファベット表記	Fushimi Yasuko				
専門分野		会計学			
研究課題	テーマ	簿記会計教育に関する研究			
	概要	簿記教育および会計教育のあり方について研究を続けている。本学で学んだ会計学や経営学の知識を、実際の企業活動や企業人としての業務活動などの実践の場において、より適切に活用できるような人材の育成を目指す。そのためのカリキュラムや講義内容、さらに具体的な教授法について検討していく。			
本年度 研究業績	研究費	総額： 250,000 円 内訳：個人研究費 150,000 円 / 科学研究費 円 そ の 他 100,000 円			
	研究テーマ	簿記教育、会計教育			
	経過と到達点	<p>今年度は、簿記のオンデマンド教材の作成と活用について取組み、初級簿記の各論点の解説動画を作成した。パワーポイントのスライドにアニメーションと音声を吹き込みながら、簿記の手続きについて解説していくものである。オンデマンドは、繰り返し視聴することができるため、理解に時間のかかる学生にとっては良い教材として活用できる可能性があることが分かった。理解の確認をするために、必ず練習問題を設定し、自己採点をしたうえで、どのような間違いをしたのかを回答させる課題を提示した。それにより、学生の理解が深まったことが、定期試験の平均点上昇より想定される。今後は、反転授業への展開も視野に入れつつ、進めていく予定である。</p> <p>会計学入門では、これまで紙面による質問と回答や選択制で挙手による回答によって、主体的に考えさせる工夫を行っていた。今年度は、オンライン授業で活用した Google フォームを利用し、学生への質問と回答の回収を行った、紙面ではすぐにフィードバックができない、挙手では一部の学生しか反応しないなどの問題があるが、Google フォームでは、ほとんどの学生が回答し、その集約結果をすぐに全体へ共有できる。その点が学生の参加意欲も高まり、全体の意見が見えることで学生自身も多くの発見を得られていた。また、個別のコメントを提示することもでき、より理解を深めることができた。</p>			

(1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等					
⑦学会での口頭発表、討論者(ディスカッサント)	会計教育におけるアクティブ・ラーニング(現場から学ぶ)	2021年 3月	単	京都経済短期大学 経営・情報学会	これまで、ゼミでは模擬店や会計ゲームなどで架空の企業を対象に簿記や会計の流れを理解させてきた。今回は、実際の企業を見ることで、大学で学ぶ「あるべき会計」の姿と、現実の実務で行われる会計の姿を比較参照することで、両社の違いを明らかにしようと試みる。その中で、学生においてどのような気づきや理解の深まりが生じるのかを確認し考察していく。

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・共訳書				
⑨単著書・単訳書				

(3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				

⑫共同研究 (分担研究)				
⑬科学研究 助成事業(日 本学術振興 会)申請				

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	初級簿記、簿記特講Ⅰ、財務会計論	簿記特講Ⅱ、会計学入門、 中級簿記Ⅰ
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目	<p>簿記科目では、非常勤講師も含めた担当者5名との打合せを密に行い、協力体制を構築して授業を実施してきた。クラス分けは学生の意欲を十分に配慮して構成することで、手数はかかるが学生の受講姿勢を高め講義に対する満足度も向上した。簿記検定対策の簿記特講Ⅰ・簿記特講Ⅱのクラスについては学生の理解度に合わせて編成し、それぞれ理解度に合わせて演習問題に取り組めるよう授業内容を組み立てた。</p> <p>財務会計論では、教員が多くを解説するのではなく、会計実務におけるさまざまな質問を準備し、学生に「どれが良いか、答えとその答えを選択した理由を説明せよ」という問いに答えてもらった。これによって、受講生は受け身で参加するのではなく、自発的に考えていくことが増え、授業へのコミットも高くなった。「考えることが面白かった」「いろいろな意見があることがわかった」というコメントが多く見られた。今後の会計実務では、数ある選択肢から各社の経営により適した方法を選択する能力が重要であり、その意識を養成することができたと思う。</p>	
	◆ 演習科目	<p>1回生の基礎ゼミナールでは、グループを作って学生が時間管理をしながら意見交換を行い、全員の前で発表するなど、学生の自立や主体的な姿勢の養成を図った。その結果、学生が主体的に運営し、様々な意見や考え方があることを理解し、自主的に発言もできるようになった。学生同士の交流機会が少ないことに配慮して、自由な交流の時間も確保したことで学生の議論も活発になった。</p> <p>2回生のゼミナールⅡおよびⅢでは、毎回2、3組が各チームの卒業論文を発表し、その内容について学生が中心となって質疑応答をするよう進めた。回を重ねるにつれて発言の内容が深いものとなり、学生の成長がみられた。ゼミの時間だけでは十分な指導ができないため、13チームそれぞれに対してゼミ時間外での個別指導を行った。</p> <p>ゼミナールⅠでは、秋華祭の模擬店を具体的な題材として簿記・会計や経営について理解を深めさせるよう取り組んだ。多くの場面でグループを作り、さまざまなテーマについて議論し発表する活動を取り入れ、主体的に考えて発言する機会を増やした。</p>	

	実習科目
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。） 初級簿記のオンデマンド講義を 10 回分作成した。Google フォームに簿記用語の練習問題や会計学のクイズや課題を 12 回分作成した。

(1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

(1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	

(2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

(3) 講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	

4. 特記事項（本年度のみ）

勉強会や課外活動を下記の通り実施した（予定も含む）。

- ① 11月簿記検定対策勉強会（9月～11月：希望者、ゼミ生以外も含む）
- ② ゼミ内卒論発表会、1・2回生交流会（2021年12月7日（火）10時～15時）
- ③ 2月簿記検定勉強会（2級受験予定者、他希望者、2022年2月3日～26日、7回予定、各3時間）
- ④ 工場見学（2月28日（月）10時～15時ごろ）